

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年11月15日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873101166		
法人名	有限会社 シニアライフ		
事業所名	小川ケアセンターみどりの風	ユニット名	
所在地	〒311-3424 茨城県小美玉市幡谷204-60		
自己評価作成日	平成28年6月23日	評価結果 市町村受理日	平成28年11月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0873101166-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0873101166-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年8月22日	評価機関 決 済 日	平成28年11月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>小規模施設で通所介護併設と言う利点を活かし、外部との交流を重視し、開設者の地元のため近隣の子ども会との交流企画を実施しています。自然に囲まれたとても静かな住宅街にある為、外観も施設ではなく、住宅地に溶け込むように配慮してます。お年寄りの方が一方的に介護を受けるのではなく、職員と共にご自分のペースで、出来る範囲で日常生活にかかわって頂き生きがいを持てるように心がけています。 &lt;ホームページ&gt;<a href="http://www.midorinokaze.net">http://www.midorinokaze.net</a></p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は住宅街に立地し、平成28年1月より2ユニットから1ユニットになった。 通所介護事業所が棟続きに併設しているので、それぞれの利用者同士が交流することができる造りとなっている。 職員は利用者が開放的な生活を送れることを心がけており、利用者が朝広告を見て「買い物に行きたい」との要望が出れば同行したり、天気の良い日にはドライブなどに出かけている。 毎月行事担当職員を決めて行事や外出など、必ず月2回は行なえるように支援している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示・朝礼時復唱	開設時に代表者と職員で作成した理念を基に、職員は利用者の視点に立って、利用者が地域の中でその人らしく安心して生活が送れるよう支援している。 理念を玄関や事務室、休憩室に掲示するとともに、朝礼時に唱和して日々意識付けをし、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事を通して交流しているが日常的な交流は出来ていない。	事業所は自治会には加入していないが、代表者と職員は地域の一員として清掃活動に参加している。 利用者は職員と一緒に事業所周辺を散歩する際、近隣住民と挨拶を交している。 週1回近隣のスポーツトレーナーがボランティアで来所し、体操教室を開いているほか、納涼祭にはボランティアによる踊りや民謡、伝統芸能を楽しむ取り組みや、クリスマス会には地域の子供達を招待するなど、日頃から地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政主催のキャラバンメイト講師メンバーとして参加	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催	運営推進会議は利用者や市職員、民生委員、地域住民、代表者、管理者で2ヶ月に1回開催し、議事録を作成している。 事業所からは行事や利用者の状況報告のほか、事業所の取り組みなどを報告し、参加者と意見交換を行っている。 民生委員から「自治会長にも会議に出席してもらいたい」との意見を受けて参加してもらったところ、情報を共有することができて、地域包括ケアシステムの構築に役立てることができた。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政職員参加・地域ケアシステム参加	市担当者が毎回運営推進会議に出席しているほか、管理者は電話だけでなく、入居状況や要介護更新申請、生活保護関係の書類申請のため、直接市の窓口に出向いているほか、代表者がグループホームや地域包括ケアシステムにおける役職に就いており、専門的な知識や情報、アイデアなどを行政に提供し、連携を図っている。 生活保護受給者の担当職員が定期的に来所している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初より施錠はなく、入所者様の状況を観察し、徘徊のある方には見守りを重視している。	身体拘束排除に関するマニュアルを作成し、年1回内部研修を実施しており、参加できない職員には資料を回覧して周知している。 徘徊の予兆が見られる利用者には、一緒に事業所周辺を歩いたり、利用者宅に行き庭の手入れをするなど気分転換を図り、徘徊を未然に防ぐ工夫をし、開設以来身体拘束は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政主催研修会に参加		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象利用者がいないが今後必要があれば勉強会を実施		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明同意の上締結し署名捺印いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の状態説明や意見を聞いている。施設での様子が分かり意見が出るように手紙を送っている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、契約時に家族等に説明するとともに、苦情相談受付窓口を掲示して、家族等が意見や苦情を言える機関を周知している。 利用者からは日々の会話の中から、家族等からは面会時などに意見や要望を聴くようにしている。 家族等から「晩酌をさせて欲しい」との要望があり、飲みたい利用者は毎日ノンアルコールビールを飲むことができるようにしたり、「日々の様子が知りたい」とのことから、毎月の事業所便りに掲載し、家族等に送っている。	面会時に聴くだけでなく、無記名の家族アンケートなどで家族等の思いを汲みあげ、運営に反映することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議を開き、積極的に意見を求めると共に、連絡ノートや口頭での報告、相談を密にするように努めている。	管理者は月1回のグループホーム会議で職員から意見や要望を聞く機会を設けているほか、日頃から話し易い雰囲気づくりを心がけている。 代表者は管理者を通して職員の様子や意見を聞いたり、年1回の職員面接で意見や要望を聞き、必要に応じて改善している。 職員から「きざみ食を作るためのミキサーが欲しい」との要望を受けて購入しているほか、資格取得を希望する職員には、半額事業所で援助したり、外部研修の希望があれば、出勤扱いで交通費も出しているなど、職員が働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	小規模法人なので代表・管理者が現場で勤務し随時問題や勤務状態などの把握をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務状況を踏まえ、外部の研修会に自発的に参加できるよう研修費の補助をし、機会を創出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	茨城県介護福祉事業協同組合理事 茨城県地域密着型介護サービス協議会会員 日本認知症グループホーム協会茨城県支部副会長 小美玉市ケアマネジャー研究会副会長 小美玉市地域密着型サービス連絡協議会副会長		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの聞き取り調査をしている。ご本人との面会も行っている。また併設デイからの入所も多い為、在宅からの一貫性のある情報を得ることが出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの聞き取り調査をしている。ご本人との面会も行っている。また併設デイからの入所も多い為、在宅からの一貫性のある情報を得ることが出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの聞き取り調査をしている。ご本人との面会も行っている。また併設デイからの入所も多い為、在宅からの一貫性のある情報を得ることが出来ている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時々で状況に合わせて対応出来てはいるが、どうしても介護依存してしまう傾向もあり		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出・外泊を自由に行っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記の実施は有るが、その場所に行く事で本人の混乱・家庭の知られたくない部分に該当する事もあるが、要望により支援出来る体制である。	入居時の聴き取りや利用者との日々の会話などから、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努めている。 自宅への外出や外食、墓参りなどに、家族等の協力を得ながら出かけているほか、家族等との面会の機会を持たない利用者には、定期的に来訪する近所の理容師が、散髪をしながら交流することで、入居後に新たな馴染みの関係が築けるような工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月の行事やレクリエーションへの参加の声かけを行い一緒に楽しめるようにするほか、個々の過ごし方が確立されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談が有れば応じている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	基本的に過ごし方は自由で、基本的なスケジュールで日中の個人のペースを作ってもらう	職員は利用者との日々の関わりの中で思いや希望を把握し、ケースノートに記載して職員間で共有している。 意思疎通の困難な利用者の場合は、家族等に相談したり、表情や仕草などで思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取り調査にて		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を毎日記入状況の把握出来ることは実践していただく。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は御家族の同意・意見を聞き作成している	介護計画は利用者や家族等の意見、要望を聴き、医師や職員の意見を取り入れて計画作成担当者が作成している。 基本的に1年毎の見直しとし、モニタリングと短期目標は6ヶ月毎、長期目標は1年毎に設定して見直しをしている。 利用者の心身の状態等に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、郵送にて家族等に確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルの作成をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合せ、その時の状況に合ったケアを実践している。デイサービスとの交流も取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生員・ボランティアの訪問は定期的に行われている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に定期的に受診していた病院には継続して受診してもらっている。家族・本人の意向があれば変更可能	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能かことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明し、確認を得ている。 かかりつけ医や協力医療機関への受診には看護師が同行し、家族等が付き添える場合は一緒に受診しているほか、週1回協力医療機関の医師による訪問診療を支援し、受診結果は家族等に電話で報告するとともに、受診ノートに記載して職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度ドクターが来所し医療面を充実させ、それ以外は24時間ドクターと連絡可能。看護職員と連携をとりながら、健康管理を行っている。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	生活サマリーの提供・早期退院の相談実施	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでの生活の継続については生活状況をご家族や主治医へ報告し、今後のあり方を話し合うようにしている。	代表者は看取り介護をデリケートかつ重大なことと捉えており、医師から看取りの段階に入ると説明を受けてから「重度化対応・終末期ケア対応指針」をもとに家族等に説明し、「看取りに関する同意書」にて同意を得ている。 現在看取りの対象者はいないが、事業所は医師や看護師、代表者との24時間連携体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修に参加できる機会を設定したり、緊急マニュアルの確認を行っている。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練実施	消防署立ち会いのもと、併設する通所介護事業所と合同で、避難訓練を行っているが、年2回以上実施するまでには至っていない。 反省点と今後の課題について話し合い、記録に残して次回につなげている。 米や水、懐中電灯、おむつ類、毛布、発電機のほか、食料品は宅配業者と契約して災害に備えている。	少なくとも夜間想定を含む年2回以上の避難訓練の実施と、前回の外部評価でも上がっていた地域住民への参加を促す工夫の継続を期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に笑顔で声がけするようこころがけている。	プライバシー保護に関する内部研修を年1回実施し、職員は利用者の人格を尊重するとともに、自尊心に配慮した言葉かけを心がけている。 事業所便りへの写真の掲載や事業所内での掲示など、個人情報の取り扱いについては、家族等から書面にて同意を得ている。 個人情報に関する書類は、施錠できる書棚に保管し、取り扱いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる言葉掛けはしているが、認知症のレベルのより困難な場合もある		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に過ごし方は自由で、基本的なスケジュールで日中の個人のペースを作ってもらってはいるが、こちら側の都合による場合もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の定期的な訪問により、個人の好きな髪型にしてもらい本人の希望であれば馴染みの理美容室の利用をしてもらっている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自発的に行う利用者にはしてもらいますが、本人のストレスとなることが多い為、強要はしていない	宅配業者の献立により食材が届き、職員が調理をしている。 利用者はできる範囲で下準備やテーブル拭き、下膳、食器拭きなどを職員と一緒にやっている。 月1回の外出計画では、利用者の希望で近くのファミリーレストランでの朝食バイキングを楽しむほか、調理レクリエーションも月1回計画し、白玉団子作りや誕生日会用のケーキ作りなどを楽しめるよう支援している。 正月や雛祭り、敬老会などの行事には行事食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックをしている。 献立でのカロリー管理		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食口腔ケアを実施し介助が必要な方には見守り一部介助にて実施		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時トイレ誘導・声掛け実施し排泄チェック表を作成	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らってさりげない声かけ誘導をし、トイレで排泄ができるように支援している。 要望があれば居室にポータブルトイレを配置し、利用者の排泄の自立を支援している。 職員の適切な声かけにより、紙パンツから布パンツに改善した利用者がある。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動は取り入れているが、ひどい便秘の方に関しては、医師と相談し下剤で調整している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前中の中の入浴となっているが、個々に十分な入浴時間・安全性確保をする為に時間を決めている。時間・タイミングをバラバラにすると、その確保が難しく、入浴しない利用者も出て来るため清潔保持も難しい	入浴は午前中で週3回以上とし、利用者の状況や要望によっては入浴日や時間帯を変更することも可能な体制となっている。 入浴を拒む利用者には職員を替えたり、時間帯を変えるなどで対応している。 柚子湯や菖蒲湯で季節感を取り入れるなど、入浴が楽しめるように工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息・昼寝は個々の自由 昼夜逆転しない程度での管理はしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の管理の元服薬ファイルにて確認・薬局との連携をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割等は本人のストレスとならなければ、自由にして頂き、嗜好品や楽しみに関しては気分転換となるよう個々に援助している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調によるが散歩などの気分転換・ドライブを実施しているが、本人・家族の希望があれば個別支援。	天気の良い日には、利用者と職員で事業所周辺を散歩したり、近くの商店に買い物に出かけ、近隣住民と挨拶を交している。 毎月レクリエーション担当者が外出計画を立てており、大洗水族館やあやめ祭りなどに、家族等の協力を得ながら車いすの利用者も一緒に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出を楽しみにされている方もいる為、金銭を自己管理されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じ利用を支援		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁飾りや小物を入所者様と一緒に製作し、設置している。	玄関はバリアフリーとなっており、廊下には手摺を設置したり、ソファを配置しているが、車いすで自由に行きが来できるスペースとなっている。 居間兼食堂は吹き抜けで天井が高く、ログハウス調の造りとなっており、数ヶ所ある天窓から外光が差し込んで明るい。 壁面には行事を楽しむ利用者の写真を掲示したり、壁掛け式のテレビがあり、ソファを配置して寛げる空間となっている。 本館にあるウッドデッキでは、天気の良い日にテーブルを出して食事やお茶飲みをするなど、外気浴を楽しむことができる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中ゆったり過ごせるよう、ホールにソファを設置し、気が合う入居者様同士の席を一緒にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込み自由。各家族により部屋を作って頂き、各居室の雰囲気を変えるようにしている	居室にはエアコンやベッド、カーテン、クローゼットが備え付けられている。 管理者は使い慣れた物品を持参して貰えるよう説明しており、利用者は家族等と相談しながら使い慣れた寝具類やテレビ、目覚まし時計、手作り作品、机、ポスター、写真などを持ち込み、居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	無駄な掲示物は無く、自分達で認識し行動出来るようにしてある。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 小川ケアセンター みどりの風

作成日 平成28年11月28日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	運営に関する利用者、家族等意見の反映	・入居者やご家族のニーズが把握され、より良いサービス提供に繋がる。	・入居者や家族からの声を運営推進会議の報告事項に反映させ、結果に繋げる。又、職員会議等により意見や要望を共有し話し合い、改善に繋げる。	12ヶ月
2	35	災害対策に関して	・地域住民の方たちにも協力していただける関係作りを行って行く。 ・消防署立会いのもと、年2回以上の避難訓練を実施する。	・運営推進会議等で近隣住民との交流も図れるように努める。 ・消防士立会いの訓練では、消化器等の使い方についても含め知識を得られるようにする。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。